

金沢大学国際基幹教育院外国語教育系・外国語教育部門 2019 年度活動記録

■事業日誌

- 3月24日 第97回中国語検定試験
- 4月2日 EAP Instructors' Welcome and Orientation
- 4月3-4日 初習言語履修相談会
- 4月 EAP I・EAP II 科目授業見学 大藪加奈
- 5月 EAP 教育企画部 相互授業参観
- 5月 実用フランス語技能検定試験（春季）模擬試験（全2回）
- 6-7月 金沢大学公開講座「各国シリーズ 異人としての「わたし」と「あなた」」（全5回）
- 6月20日 第1回FD研究会「EAPワークショップ1」
- 6月23日 第98回中国語検定試験
- 7月20日 第1回IELTS 学内実施
- 7月17日 TOEIC 準備科目授業見学 John Bintliff
- 7月25日 第2回FD研究会 Henning Maurer 「ドイツ語母語話者教員から見た金沢大学におけるドイツ語教育」
- 8-9月 TOEIC 夏季集中講座（全2回）
- 9月12日 第2回IELTS 学内実施
- 9月26日 第一国際基幹教育院FD研修会 ダガンさかの「英語学習者オートノミーの育成：TOEIC 準備クラスにおける学習計画を取り入れた授業実践」
- 9月26日 第一国際基幹教育院FD研修会 菅野磨美「EAPと初学者ゼミIIにおけるグループ・ディスカッションの実践について」
- 10-11月 実用フランス語技能検定試験（秋季）模擬試験（全6回）
- 11月1日 FD/SD 講演会 日野信行 “The integrated learning of content and English as an international language in English-medium instruction classes” 「英語で行う専門科目授業（EMI）における国際英語（EIL/ELF/WE）の学び」
- 11月 EAP III 科目授業見学 大藪加奈
- 11月20日 金沢大学FD研修会 大藪加奈「GS言語科目における組織的FD活動」
- 11月24日 第99回中国語検定試験
- 12月1日 ドイツ語技能検定試験（冬季）
- 12月14日 第3回IELTS 学内実施
- 2月3日 第2国際基幹教育院FD研修会 大藪加奈「Supporting students with special needs」
- 2月5日 第3回FD研究会「TOEIC 準備コースの補助教材に関する情報交換会」
- 2月13日 第4回FD研究会 佐藤朋子・杉村安幾子・趙菁・早川文人・平松潤奈「初習言語科目における学生への個別サポートについて」
- 2月14日 第5回FD研究会「EAPワークショップ2」

■FD/SD 講演会

11月1日“The integrated learning of content and English as an international language in English-medium instruction classes”「英語で行う専門科目授業（EMI）における国際英語（EIL/ELF/WE）の学び」Speaker: 日野信行（大阪大学大学院 言語文化研究科 教授）

（参加人数：24名）

The EAP Committee was pleased to welcome Professor Hino, of Osaka University, who gave a lecture on the value of incorporating usage of and instruction in English as an international language (EIL) within an EMI context. He began the presentation by giving his definition of EIL, which draws on elements of the concepts of World Englishes (WE) and English as a Lingua Franca (ELF), and which he noted was the focus of his pedagogy. One reason his research has focused on EIL in EMI classes is that these classes provide one of the few chances available to students in Japan for practicing EIL in an authentic setting. As such, within his own EMI classes he provides activities which encourage interaction between students, with higher proficiency students helping to support lower proficiency students. This arrangement has obvious benefits for less proficient learners, but Professor Hino additionally argued that, as the higher proficiency students have to consider how to adjust their language to be understood, such situations are actually mutually beneficial. One such activity that he recommended was observed small group discussions, wherein a group of students hold a discussion in front of their classmates, who observe the discussion. This is followed by a class discussion, in which both the content of the discussion and the communication strategies used by the members of the small group are discussed. Professor Hino’s presentation was followed by a short Q&A session. (Lewis Murray)



■FD 研究会

第1回 6月20日 「EAPワークショップ1」

(参加人数：11名)

The first EAP Workshop of the year was hosted by the EAP Committee as an opportunity for instructors to give their views on how their EAP I and EAP II classes in Quarter 1 had progressed and share any comments they may have had about the courses. The event was chaired by Professor Brown, who outlined the morning's



proceedings, before Professor Oyabu and Professor Kwon gave presentations. Professor Oyabu's presentation detailed the university's policy regarding disabled and vulnerable students, and how this affects EAP classes. This was followed by a short Q&A, before Professor Kwon presented on written feedback on student writing. This began with an outline of some of the different methods that can be used for providing feedback and the effectiveness of each, before instructors were invited to share comments about their own experiences of giving feedback within the context of EAP classes. Following the two presentations, there was an informal discussion during which instructors discussed various aspects of the EAP I and EAP II courses with committee members. (Lewis Murray)

第2回 7月25日 Henning Maurer 「ドイツ語母語話者教員から見た金沢大学におけるドイツ語教育」

(参加人数：11名)

本研究会においては、金沢大学のドイツ語教育について、交流協定校からの派遣教員であったマウラー先生にドイツ語母語話者教員としての観点に基づいてご報告頂いた。日本人学習者ならではのミスや特徴的な表現、自身の教学経験に基づく様々な事例が紹介され、初習言語科目のより良い授業方法を考える良い契機となった。その後、初習言語科目の教育・学修支援に関して会場全体で意見交換を行なった。

マウラー先生のご報告の中でとりわけ印象深かったのは、日本人学生が「幼い」ということであった。「真剣に取り組む姿勢を見せるのはちょっと格好悪い」という若者の風潮はドイツにもあるが、せいぜい高校生までであり、日本人学生のメンタリティのありようが、語学指導の過程において関心を惹いた事柄であったとのことだ。

ドイツのデュッセルドルフ大学で現代日本を研究対象とされ、日本語の大変堪能であったマウラー先生は、丸4年本学においてドイツ語指導に当たられ、本年9月末をもって任期満了となった。本研

研究会がマウラー先生の「有終の美」となったことは言を俟たないであろう。マウラー先生の本学のドイツ語教育への多大なる裨益に感謝したい。（杉村安幾子記）

第3回 2月5日 「TOEIC 準備コースの補助教材に関する情報交換会」

（参加人数：11名）

国際試験教育企画部では、2月5日に、TOEIC 準備科目で使用可能な補助教材に関する情報交換会を開催した。この会は TOEIC 準備科目を担当する教員向けに企画したもので、非常勤講師の方々にも参加していただきやすいよう、2 時限目に TOEIC 準備が開講される日の昼休み時間に実施した。

TOEIC 準備コースでは、全クラス共通の統一教科書を使用しているが、習熟度に応じた三つの層に分けてクラスを編成しているため、各教員が履修者の状況に応じた補助教材を準備・作成していることが多い。そこで、新年度に向けた FD 活動として、授業時間内の活動で使用する資料やハンドアウト、時間外学習用のワークシートなど、各教員が実際に用いている補助教材について、アイデアを交換・共有できる機会を設けることにした。

今回は主に企画部のメンバーが自作の補助教材を持ち寄り、上位層クラスに適したもの、下位層クラスで使用しやすいものなど、テーブルを分けて展示し、使い方の説明や質問対応を行った。配付可能な教材については、参加者が持ち帰れるよう、印刷資料を用意した。このほか、関連書籍の展示やオンライン教材の実演も行った。

情報交換会には非常勤講師 3 名を含む 11 名の参加があり、日頃の授業実践や様々な工夫、教材の使用法などに関する情報共有と活発な意見交換を行うことができた。国際試験教育企画部では、これまで教材バンクなども含めた補助教材共有のための検討を行っており、今後に向けて大きな意味をもつ会となった。（数見由紀子記）



第4回 2月13日 佐藤朋子・杉村安幾子・趙菁・早川文人・平松潤奈「初習言語科目における学生への個別サポートについて」

(参加人数：9名)

近年、さまざまな取り組みによって学内の学修支援体制が充実してきたが、それは、種々の事情から授業をスムーズに受講できない学生の存在がより可視化されてきたことも意味する。本FD研究会では、そうした学生の受講困難の事例に際して、初習言語（独・仏・露・中）の担当教員が授業内外でどのような個別サポートをしてきたか、情報共有と意見交換を行い、よりよい初習言語学修支援の可能性を探った。

受講困難者に対する支援制度として最初にあげられるのは、学務係をとおしての授業配慮依頼である。障がいのある学生が受講する授業の担当者は、学務係から事前に、当該学生に対して個別に配慮すべき事項を伝達される。今年度は、本FD研究会に参加した初習言語担当教員のうち3人が、そのような配慮依頼を受け取っていた。研究会では、この依頼を受けて実施された個別対応（聴覚障がいや発達障がいなどへの配慮）について報告がなされた。

報告からわかったことは、当然ではあるが、このように事前通知がある場合、すでに学内組織や家族、医療機関などによるサポートが始まっている可能性が高く、したがって対応策もすでにある程度明確となっており、実際の授業運営に大きな支障が生じるケースは相対的に少ない、ということである。初習言語科目の授業は、発声、聞き取り、ペアワークなどの実践を含むため、聴覚障がいやコミュニケーション障がいのある学生が受講するクラスの場合、あらかじめ一定の対応策が示されていることが、円滑な授業運営にとって特に重要であろう。

他方、事前通知がなく、授業中や授業期間に突然問題が発生した場合には、対応も簡単にいかない場合が多い。本FD研究会では、こうした事例についても3-4例の報告があった（持病による発作、発達障がい等による受講態度の不安定、不登校など）。こうした場合に注意すべき点は、当該の受講困難状況について、本人、教員、当該クラスの学生、大学、家族などのあいだで、どの程度の情報共有が行われ、可視化がされるべきか、という問題である。受講困難状況は、個人のプライバシーにも深く関わっているため、明らかにされず（明らかにすることが望ましくない場合もあり）、解決が難しいこともありうる。

本研究会では、上記のような問題への対応事例の紹介や対応方法の確認が行われたほか、大学内での支援組織の連携（学務係、障がい学生支援室、保健管理センターなど）、単位付与の問題などについても情報交換があった。こうした情報共有や話し合いは、教員による今後のサポートに対する心構えなどの面で、たいへん有益なものであったと思われる。（平松潤奈記）

第5回 2月14日 「EAPワークショップ2」

(参加人数：14名)

The second EAP workshop of the year began with Professor Duggan presenting research she has carried out investigating the effectiveness of Criterion grading software, especially with regard to its value as a potential grading tool for EAP assignments. The presentation was followed by a Q&A session and discussion of the potential benefits and drawbacks of the software, both from the perspectives of instructors and learners. After a short break, the second session began, during which the respective EAP course heads introduced the major changes to the EAP syllabi for 2020, which include the creation of new course materials for EAP II and substantial changes to the EAP III and EAP IV assignments to ease the grading load on instructors. The motivation for the changes to

EAP III and EAP IV – namely, the university-wide changes to grading deadlines and the new “interval” system – were explained to instructors. The main points of discussion following these explanations were the possible drawbacks of instructors changing students between EAP III and EAP IV, and clarification of the new format for the EAP III and EAP IV assignments. (Lewis Murray)



■ その他

■9月26日 ダガンさかの 第一国際基幹教育院 FD 研修会 「英語学習者オートノミーの育成：TOEIC 準備クラスにおける学習計画を 取り入れた授業実践」

TOEIC 準備クラスを対象に学習計画作成及びチェックリストを授業内に 取り入れ、学習者オートノミーの育成を試みた授業実践の報告。

■9月26日 菅野磨美 第一国際基幹教育院 FD 研修会 「EAP と初学者ゼミ II におけるグループ・ディスカッションの実践について」

EAP と『初学者ゼミ II』におけるグループ・ディスカッションの実践報 告。学生間のディスカッションを、英語・日本語共に、スムーズに行うことを目 的とした授業内でのアクティビティの提案。

■11月20日 大藪加奈 金沢大学 FD 研修会 「GS 言語科目における組織的 FD 活動」

TOEIC 準備クラスを運営する国際試験教育企画部と EAP コースを運営す る EAP 教育企画部が行っている種々の組織的 FD 活動の紹介。

■2月3日 大藪加奈 第2国際基幹教育院 FD 研修会 「Supporting students with special needs」

障がいなど、種々の受講困難を抱える学生への外国語教育系の対応の 紹介と、部局を超えた連携の提案。

■教育開発事業

■4月2日 EAP Instructors' Welcome and Orientation

(参加人数：12名)

The EAP Committee held an informal welcome event enabling full- and part-time instructors to meet each other and EAP committee members. The event also allowed instructors to ask questions related to teaching and assessing the EAP courses, and to clarify any administrative issues. Instructors new to Kanazawa University were given a tour of the General Education Building, familiarizing them with the Gakumu office, the part-time instructors' common room and the classrooms. In total, twelve instructors attended, five of whom were new to teaching EAP classes. Attendees were also able to pick up their copy of the 2019 EAP Teachers' Guide. (Lewis Murray)



■4月・11月 大藪加奈 EAP I・EAP II・EAP III 科目授業見学

(参加人数：3名)

EAP 教育企画部では、新しく EAP 科目を担当する教員や、EAP 科目のインストラクター候補の教員に、授業を公開しました。

■5月 EAP 教育企画部 相互授業参観

(参加人数：7名)

FD 活動の一環として、EAP 教育企画部教員間の相互授業参観を行いました (7 コマを参観)。

■7月17日 John Bintliff TOEIC 準備科目授業見学

(参加人数：3名)

国際試験教育企画部では、教員間の相互研修の一環として、「TOEIC 準備 II」の授業見学を実施しました。



■学習支援事業

■初習言語履修相談会

2019年度も初習言語履修相談会を二日間（4月3日・4日）に渡って開催した。新入生に初習言語科目の履修方法、使用される教科書、大学主催の長期・短期語学研修などについて説明し、初習言語の魅力及び学習する意義を伝えた。将来の仕事を見据えて履修言語を選択する学生もいれば、その言語と文化に関心を持って学習を考える学生も多くいた。各言語担当者が学生たちの考えを真摯に受けとめて履修のアドバイスを行った。大学入学後に初めて習う言語に対する不安、迷いが本履修相談会を参加したことで軽減され、初習言語の履修登録がスムーズに進むことに繋がったと思う。（趙菁）

■TOEIC 集中講座

前年度に引き続き、休み期間（夏季）に TOEIC 集中講座を実施した。
実施日時および概要は以下の通り。

TOEIC 夏季集中講座

8月29日	9:45-17:00	TOEIC Listening & Reading 対策講座〈中級編〉
9月4日	9:45-17:00	TOEIC Listening & Reading 対策講座〈入門編〉

■ドイツ語技能検定試験リスニング対策・カフェ・クラッチ

外国語教育系教員が本学のドイツ語技能検定試験受験者のために、リスニング試験対策（2級、3級）を下記のスケジュールで実施した。当日予定が入って来られない学生については、別時間に対応した。

ドイツ語技能検定試験リスニング対策

日付	場所	対象級	人数	担当者
6月14日	総合教育棟 C8・C9	2級・3級	5名	早川
11月8日	総合教育棟 D2・D3	2級・3級	8名	早川

カフェ・クラッチ

毎週水曜日3時間目に、人社棟1号館5階ドイツ語学ドイツ文学研究室で、「カフェ・クラッチ」と呼ばれるコーヒーを飲みながらドイツ語で会話をする場のオーガナイズを、第1・2クォーターではヘニング・マウラー教員が、第2・3クォーターではヤナ・クラチャンスカ教員（他本学教員1名担当）が担当した。ドイツからの留学生やドイツ語に興味関心を持つ学生が学類を問わず参加した。ドイツ語会話練習やドイツからの留学生と知り合う良い機会になるので、ドイツ留学を考えている学生にはとくにカフェクラッチへの参加を促している。（早川文人記）

■検定試験関連事業

■中国語検定試験

実質受験者数と合格者数（括弧内）

	第 97 回 (3/24)	第 98 回 (6/23)	第 99 回 (11/24)	合計
準 1 級	0	0	0	0
2 級	1 (1)	1 (0)	2 (0)	4 (1)
3 級	11 (3)	5 (2)	10 (8)	26 (13)
4 級	7 (7)	0	6 (6)	13 (13)
準 4 級	0	0	1 (1)	1 (1)
合計	19 (11)	6 (2)	19 (15)	44 (28)

会場責任者：杉村安幾子

試験監督者：杉村安幾子・趙菁

■実用フランス語技能検定試験、模擬試験（リスニング対策）

2019 年度、実用フランス語技能検定試験は例年どおり 2 回開催されました。春季は 2019 年 6 月 16 日（日）（1 級・2 級・準 2 級の 1 次合格者を対象とする 2 次試験は 7 月 21 日（日））、秋季は 11 月 17 日（日）（準 1 級・2 級・準 2 級の 1 次合格者を対象とする 2 次試験は 2020 年 1 月 26 日（日））に実施されました。本学からは 2 名の教員、うち外国語教育系からは佐藤朋子が 2 次試験の運営に協力しました。なお、試験にさきだち、学内でリスニングの模試を実施しました。春季は 5 月 8 日と 13 日にそれぞれ A2 教室と C111 教室で開催し、4 級対策に 1 名、3 級対策に 2 名が参加しました。秋季は 10 月 15 日、17 日、18 日、24 日、11 月 7 日、11 日に B8 教室にて開催し、4 級対策に 3 名、3 級対策に 2 名、準 2 級対策に 5 名、2 級対策に 1 名が参加しました。

本学からの実質受験者数と合格者数（括弧内）

	1 級	準 1 級	2 級	準 2 級	3 級	4 級	5 級	計
春季	1 (1)	実施なし	2 (0)	6 (5)	8 (4)	3 (3)	2 (2)	22 (15)
秋季	実施なし	1 (0)	2 (2)	6 (6)	10 (8)	16 (15)	1 (1)	36 (33)

■IELTS 学内実施

令和元年度 IELTS 学内受験の実施日時、受験者数は下記の通りである。

7 月 20 日 18 名

9 月 12 日 30 名

12 月 14 日 29 名

■ドイツ語技能検定試験

ドイツ語技能検定試験（冬季）は、2019年12月1日（日）に本学角間キャンパス総合教育棟で行われた。早川教員が運営責任者、ヤナ・クラチャンスカ教員、他本学教員2名が試験監督としてドイツ語技能検定試験を実施した。なおドイツ語技能検定試験夏季（富山大学）および冬季の本学学生の参加人数および合否情報は事務局から提出されなかった。冬季の技能検定試験は、北陸3県（石川・富山・福井）での唯一の受験会場で、実施する意義は大きい。今後も検定の実施が本学で続けられるように努力したい。欠席者を除く、受験者実数は下記の通り。

ドイツ語技能検定試験（冬季）会場：金沢大学角間キャンパス総合教育棟1号館

1級	準1級	2級	3級	4級	5級	合計
1名	12名	8名	26名	25名	5名	85名

（早川文人記）

■社会貢献事業

■金沢大学公開講座「各国シリーズ 異人としての「わたし」と「あなた」」

今年度の公開講座「各国シリーズ」では、外国語教育系教員が「異人」というキーワードを手がかりに、中国、ドイツ、ロシア、仏領アルジェリア、トルコ・イランにおける歴史文化や価値観などを解説し、受講者に紹介した。受講者アンケートによると講座についての感想は概ね好評だった。今年度実施したプログラムは下記の通り。

第1回	6月5日	杉村安幾子	「中国人」とは誰か：多民族国家の文化の多様性
第2回	6月12日	早川文人	詩人ハイネと現代ドイツ
第3回	6月19日	平松潤奈	秩序反転への期待：ロシア聖愚者の系譜
第4回	6月26日	佐藤朋子	フランス領アルジェリアと「異人」たちの記憶
第5回	7月3日	大藪加奈	児童文学にみる異人としての子供：あなたは何人？

（早川文人記）

■刊行物

- 『初習言語ガイドブック』2020年度版
- 『EAP Teachers' Guide 2020』
- 『EAP コース説明リーフレット』
- 『TOEIC 準備コース説明リーフレット』
- 『言語文化論叢』第24号
- 『外国語教育フォーラム』第14号